

## 「こどもの居場所」＋フード&ライフパントリーネットワークづくり事業

**事業主体** 名称：一般社団法人ジンジャー・エール  
住所：岡山県備前市日生町寒河1037-1  
**事業実施場所** コミュニティカフェ天goo・ビーテラス 他

### ●ネットワークづくり事業●

#### <目的>

- ・備前市内でこどもの居場所（こども食堂）を開設している団体との交流会を開催し、各団体の現状把握や改善点の洗い出しを行う。
- ・今後ネットワークを広げていく協力体制を構築することを目的とする。
- ・こどもの居場所の活動の質の向上につなげる。

#### <概要・方法>

- ・備前市内でこどもの居場所を開設している団体や個人で開設している居場所の開設者・こどもの居場所に興味のある個人や団体の方々と年数回の交流会や年に1回の研修会を開催する。
- ・SNS等（LINEグループ・公式LINE）で情報提供や交換を行ったり、こどもの居場所マップを作成し、活動や寄付の周知を行ったりする。

### ～事業実施内容～

#### 事業名 ■「こどもの居場所」研修会の開催■

##### 1)参加者数 20名

市内6団体10名（イングリッシュクラブ1名・香登教会1名・ピアチェーレ1名・みらいスチームラボ1名・トヨタ自動車1名・ジンジャー・エール5名）

市外4団体代表者・備前市社会福祉協議会・瀬戸内市社会福祉協議会・赤磐市社会福祉協議会・備前市こどもまんなか課・備前県民局

##### 2)実施日時 令和7年12月5日（金）13：30～15：00

##### 3)実施場所 備前ビーテラス 2階多目的ホール

##### 4)実施内容 ①講演会

「もしも」に備えた「いつも」の活動とつながり

こども食堂防災研修 in岡山県東備地域

防災士 和泉 智子（むすびえこども食堂防災拠点化プロジェクト）



## 5)活動の成果等

●昨年度、備前市のネットワークづくりの一步が踏み出せた。こどもの居場所の考え方や今の置かれている状況などを知り、方法は様々でも大切にしていきたい方向性はきちんと共通した理解を持つことが必要ではないか・質の向上につながるのではないかと考えているので、みんなで研修を受けることは必須だと考え、企画した。

「こどもの居場所における防災」について考える機会や災害時にこどもの居場所としてどんな支援ができるのか、どのように子どもたちを守っていくことができるのかを実践を交えながら学べたことは、実際の現場で行っていくことができることも多く、災害について子どもたちと一緒に考える機会にもなり、本当に意味深かった。

●こどもの居場所が災害時における防災拠点となりうるという新たな視点をみんなで共有し、意識をして居場所を開設し、参加者にも周知していくことは、地域にとっても必災害時に必要な場との認識に変化いくと思うので、そういう視点を持つことができたことが一つの成果だと思う。

●参加者においても、防災について考えるきっかけとなり、団体に帰って、子どもたちやスタッフと共有したいといった感想やこどもの命と守ることを一番に考えていきたい・安全点検を行いたい・こどもの居場所が防災拠点になりうることを始めて知ったなどの感想があり、災害時のことを自分事に考えることができたように思った。

●備前市で開設している団体・これからはじめてみたい方や興味がある方・他の市町で開設されている団体・行政・社会福祉協議会など、様々な方が講演に参加してくださり、一緒に学ぶ機会持つことができたことは成果である。

## 事業名 ■「こどもの居場所交流会」の開催■

### 1)参加者数 20名

市内6団体10名（イングリッシュクラブ1名・香登教会1名・ピアチェーレ1名・みらいスチームラボ1名・トヨタ自動車1名・ジンジャー・エール5名）

市外4団体代表者・備前市社会福祉協議会・瀬戸内市社会福祉協議会・赤磐市社会福祉協議会・備前市子どもまんなか課・備前県民局

### 2)実施日時 令和7年12月5日（金）15：00～16：00

### 3)実施場所 備前ビーテラス 2階多目的ホール

### 4)実施内容 ①こどもの居場所の情報交換会（グループ討議）

- ・普段感じている悩み相談や他の団体に聞いてみたいことなど質問タイム)
- ・質疑応答 和泉講師より

### ②連絡

- ・フードドライブについて
- ・「こどもの居場所マップ」について
- ・バスケットボール試合招待券について



## 5)活動の成果等

- グループワークについては、市町ごとにわかれておこなった。備前市のグループについては、去年からの積み重ねもあり、情報交換などがお互いしやすくなってきている姿が見られ、ネットワークの大切さや距離を縮めることができる良さを回を重ねるごとに感じるようになってきている。
- はじめは、交流会を備前市内のこどもの居場所の関係者に絞ることも考えたが、和気町・瀬戸内市・赤磐市・岡山市など他の市町のネットワークにも声かけをし、参加者を募ったところ、備前市はもちろん、他の市町からも参加してくださり、交流することができ、とてもよい機会となった。特に瀬戸内市や赤磐市は、社会福祉協議会が市内の居場所の取りまとめをしてくださっており、状況がわからない中で周知に協力していただき、瀬戸内市や赤磐市など新たなつながりが持てる非常に良い機会となり、ネットワークが今年度広がったことは、大きい成果だと思っている。
- これから始めたい方や今現在開設している方なども交じって話をしたが、さまざまなフェーズでの質問や悩みなどがたくさん出て、時間がまだまだ足りないくらいだった。質問などをグループ内でも話す時間と和泉講師に質問して聞く時間を持つことができたので、今後に活かすことができることがたくさんあったように思う。  
今回は、広く悩みや質問を出し合い、話し合う時間だったが、悩みのテーマごとに分かれて話す時間が持てるとよかったと感じた。いろいろなフェーズや立場の方がグループにいたからこそ、話の内容がバラエティに富んでいる様子も見られた。
- この会で参加の居場所の方々や市の取りまとめをしている社会福祉協議会さんとの承諾がとれ、居場所の洗い出しを進めるためのマップづくりの協力をお願いすることができ、掲載希望用紙の配布や回収のお願いができたことは大きな前進だった。
- ネットワークづくりの成果物として、「2026年版こどもの居場所マップ」を作成したが、昨年の約、倍の数の29か所の居場所を掲載することができ、ネットワークの広がりをこのマップでも実感することができる。

## ～事業実施内容～

### ●協働実施推進事業●

#### <目的>

こどもの居場所のネットワークを作るとともに自団体がハブ役となりフード&ライフパントリーのネットワークも同時に作っていくことで困難を抱えているこどもや家庭にとって生活の支援や必要な支援の一つとなっていくことを目的にする。

- ・備前市内のネットワークを使用し、各拠点に食品や生活物資を届け、小さい規模のフード&ライフパントリーを開設し、困難を抱える家庭等に必要な支援を届ける。
- ・フードドライブの開設を行ってくださる企業や店舗・関係機関を探し、フードパントリーで配布できる食品や物資を増やしていく。
- ・寄付をいただいた食品や物資が少しでも多くこどもたちに届くことをねらう。
- ・夏季休暇中の昼ごはん支援やリユース会を備前市のこどもの居場所のネットワークの団体や町内会・社会福祉協議会などと協働で行いながら、必要な方に必要な衣類が届くようにし、生活の困り感解消や生活の手助けとなるようにする。
- ・備前市内のこどもの居場所のネットワークを軸に他の団体・行政・学校などとの様々な連携の在り方を考えていく機会を持ち、連携の広がりや必要な連携について考えていくようにし、それぞれの活動をつ

ないだり、広げたりすることができるようにしていく。

#### <概要・方法>

- ① ミニフード&ライフパントリーの開設
- ② フードドライブの場所新規開設
- ③ こども服のリユース会開設
- ④ 夏休み昼ごはん支援(他団体と)
- ⑤ 連携を当事者で考える会の開設

#### 事業名 ■①ミニフード&ライフパントリーの開設■

当団体毎月2回パントリー開設+他団体にも依頼・分配しパントリー開設やこども食堂での利用を促す

\*別紙参照

##### 1)参加者数

\*別紙参照 配布記録参照

##### 2)実施日時 当団体：こどもの居場所の時間内

第3金・第4水曜日開設

他団体：随時・子育て支援拠点開設時間内

##### 3)実施場所 コミュニティカフェ天 goo 内・各団体の拠点

##### 4)実施内容 フード&ライフパントリーの開設



##### 5)活動の成果等

●実施内容については、別紙を見ていただくと、わかりやすい。様々な団体や個人から食材や物資の寄付をいただき、またフードドライブで集まった食材などを他団体にも分配や依頼し、各団体に来ている参加者や団体とつながる新たなきっかけとしてパントリーを開設していただいた。また、各団体でこども食堂に使用していただいたりもして、寄付を大いに活用することができた。

●SNS等(LINEグループ・公式LINEなど)を活用して、食材等の寄付の情報を提供するようにし、必要なものをうまく分配することが仕組みとしてできるようになったことは、各団体の活動にも役立ち、いい効果が出ている。

#### 事業名 ■②フードドライブの場所新規開設■

<ねらい>市内商店・スーパー・ホームセンター・企業・銀行・施設などにフードドライブのコーナー(思いやり♡BOX)を設置していただき、来店者さまや従業員のご厚意で食品や生活用品などの寄付を集めていただき、それを当団体が回収し、各こどもの居場所等に配布し、こども食堂で使用したり、各こどもの居場所で必要な方々に配布していただいたりする仕組みを作る。

##### 1)参加者数

フードドライブコーナー設置協力企業さま

備前日生信用金庫様市内6店舗・日生青果さま・ホームセンターナフコさま・パオーネさま・日生中央公民館さま・備前市役所さま・ファミリーマートさま・松木鉄工所さま・ゆめタウン平島店さま・ゆめタウン邑久店さま・前川商店さま

- 2)実施日時 常設設置
- 3)実施場所 各店舗・企業
- 4)実施内容 フードドライブコーナー設置



#### 5)活動の成果等

- 普段からお世話になっている備前日生信用金庫さまが、以前からフードドライブの活動に理解や協力をしてくださっており、市内の店舗に設置していただけないかと依頼すると快く設置を承諾してくださり、今年度も昨年度に引き続き、市内の全店舗の6店舗にコーナー設置をしていただくことができた。各地域に支店があるので、回収を当団体がするのではなく、支店に近い団体が回収に行くことにし、ネットワークで分け合える仕組みを昨年度作った。回収の時の交換箱・回収者の証明書を発行し、ネットワークの所属団体がきちんと回収に来ることが、各店舗で理解できるように「マニュアル」のようなものも作り、改めて周知した。他の団体と備前日生信用金庫さまとのつながりもできているので、よい仕組みができているので、新たに立ち上がった団体との分け方をうまく進めているところである。
- 今年度は、9月くらいから、ゆめタウンの平島店や邑久店さんのフードドライブも回収させていただけることになり、1か月に1回くらいのペースで回収させていただくことができています。また、1月くらいから、邑久店は、瀬戸内市の子ども食堂を開設している団体につなぎ、回収して、パントリーや子ども食堂に利用していただくように仕組みづくりを行うことができた。
- このネットワークとドライブの仕組みができたことによって、支援が必要な方々が、自分の行きやすい各団体の拠点で食品などを受け取れることが可能になったり、こども食堂で口にできたりするようになった。仕組みはまだ整えないといけないが、仕組みを活用する方法ができたことは、支援が必要な方にとっても各団体にとっても意義深いと感じる。

#### 事業名 ■③こども服のリユース会開設■

- 1)参加者数  
約75世帯 205名
- 2)実施日時 令和7年11月30日 9:00～準備 10:30～14:00
- 3)実施場所 備前ビーテラス
- 4)実施内容 こども服・こども用品リユース会



## 5)活動の成果等

●今年度も子育て中の方から要望や問い合わせが多数あり、市内のこどもの居場所や子育て支援拠点・放課後児童クラブ・公民館・こども園などと協働で、回収箱を拠点に設置していただき、不要になった子ども服を集めさせていただいた。その他にもすぐにサイズアウトする子ども服を寄付したい方や少しの期間使えたら助かるという方など、参加者の方も含め、いろいろな協力があったの開催につながっていると改めて感じる。たくさんの子ども服や制服・学用品やこども用品などを集めることができた。

●必要としている方がたくさんおられるということは、来場人数的にもアンケートの結果においても確実であり、今後もつなげていくべき活動であることを感じる。

●アンケートの結果については、ほとんどの方がリユース会の満足度を聞いた質問に大変満足している・満足しているに回答してくださっており、ビーテラスで今年度初めて開設したが、場所としても開催の規模としてもちょうどよかったのではないかと感じた。今後の開催については、継続を希望している方が100%に限りなく近く、継続をできる限りしていきたいと考えている。また、場所的にもビーテラスでの継続開催を検討したいと考えている。次に、希望しているものが何だったのか・希望していたものは何だったのかの質問については、子ども服が一番多く、次に制服を希望している方が多くいた。すぐにサイズアウトする服の需要が大きいことが伺える。

### 事業名 ■④夏休み昼ごはん支援■

1回目：寒河コミュニティまちづくり協議会さまと昼ごはんクッキング

#### 1)参加者数

小学生18名・中学生1名

2)実施日時 令和7年8月1日（金）

3)実施場所 日生東公民館

4)実施内容 ・寒河まちづくりコミュニティ協議会の方々、地区の栄養委員さんの協力で昼ごはんを作って食べる  
・レクリエーションを楽しむ



## 5)活動の成果等

●寒河まちづくりコミュニティ協議会のご協力をいただき、こどもたちの夏休み中の昼ごはん支援の機会を持つことができた。今年度もこどもの居場所を開設している中で、長期休みの期間のごはん事情が気になっていることを協議会の方々に相談したところ、栄養委員さんなどにもご協力いただきながら夏休みに開設できたことは、本変ありがたく、特に地域の核になる協議会さんとのつながりの中で協力し合いながら、こどもの支援活動ができたことは、心強い連携を今年度も継続できたことは本当に意味が大きいと感じた。

●こどもたちにとって、作りやすく、楽しみながらできるメニューを考案していただき準備していただき、作るという楽しみや異年齢の友達や大人との触れ合いももつことができ、素敵な時間を持つことができた。

みんなで食事を一緒にするという夏休みのよい体験にもなったように思う。

#### 事業名 ■⑤連携を当事者で考える会の開設■

- 1)参加者数 52名
- 2)実施日時 令和8年2月12日(木) 10:00~12:00
- 3)実施場所 備前市美術館
- 4)実施内容
  - ・事例発表 備前中学校校長 藤森 卓磨 先生  
日生中学校教頭 久次 博文 先生
  - ・自己紹介
  - ・ワークショップ「連携について考える」  
こどもや自団体のモヤモヤを出し合う  
助けてほしいこと・協力できることを出し合う  
悩みを解決するための手段としてどんなことを望んでいるか出し、話し合う。



#### 5)活動の成果等

●市内でこどもや若者を支援する活動をしている団体、fーsaloonと協働で会を開設した。こどもの居場所のネットワークを同じ活動をしている団体だけのネットワークではなく、更に一段上げたネットワークの構築につながるように願い、会を開催した。市内には、「こどもの居場所」の活動をしている団体だけでなく、こどもの支援をしている団体が任意団体も合わせると20くらいあり、活動自体も「子育て支援拠点」や「放課後児童クラブ」「放課後デイサービス」など多岐に渡る。一つ一つの団体がそれぞれに頑張っているが、なかなかお互いのことを知ったり、つながって情報交換をしたり、一緒に活動していることはない。更に、行政や学校・企業など様々な関係機関と連携したいと願っているものの手段がわからなかったり、きっかけがなかったりする。どの団体も似たような悩みや願いなどはあるように思うが、それをつなげていく窓口となるような人や事務局を担えるような団体はない。現在、点であるそれぞれの活動を線をつないだり、更に面にしていくことができるような事務局となりうる「こどもの居場所ネットワーク」を構築していくことを目標に、民間・行政・学校関係・施設関係など様々な「こども」に関係する人たちがうまく連携し、よりよい関係性を築いたり、課題の解決に向けて一緒に取り組んだりできる関係性が築けるようにとキックオフとなるような会を開いた。お互いにどんな活動をしているのか、どんな人なのか、どのようなことを考え、悩み、解決していこうとしているのかということを出し合ったり、「お互いを知る」ということをこの第1回目は目指し開催したが、手ごたえがかなりあった。

●協働開催ということで、互いの団体の考え方をすり合わせ、強みや把握している状況・課題感を出し合うことで、今までのこどもの居場所ネットワークの現状をもう少し、充実した内容にしていこうという提案をいただき、未来像に近づく勇気や前に進む力や知恵をいただくことができた。

●参加者の連携に対する熱量がかなり高いことが実感でき、参加者の前向きな願いが手に取るように分かったので、ネットワークのコーディネーターの役割を担うことができるように尽力していきたい。

## <協働実施した団体>

### ① ミニフード&パントリーの開設

フードバンク岡山・岡山こども食堂支援センター・NPO 法人ジャパンハーベスト  
フードドライブ設置企業・備前市内こどもの居場所開設団体（複数）・備前市内子育て支援拠点・地域の農家・地域住民

### ② フードドライブの場所新規開設

備前日生信用金庫・ナフコ・ゆめタウン・公民館・市役所・商店など

### ③ こども服のリユース会開設

備前市内こどもの居場所開設団体（複数）・備前市内子育て支援拠点・ビーテラス・  
備前市中央公民館・社会福祉協議会など

### ④ 夏休み昼ごはん支援

寒河まちづくりコミュニティ協議会・栄養委員・備前市内こどもの居場所団体

### ⑤ 連携を当事者で考える会の開設

NPO 法人 f-saloon・備前市内こどもの居場所開設団体・子育て支援拠点・小・中学校・こども園・放課後児童クラブ・備前市教育委員会・こどもまんなか課・公民館・  
子育て支援活動団体など

## <どのような形で協働したか（それぞれの団体の役割等）>

### ①ミニフード&パントリーの開設

フードバンク岡山・岡山こども食堂支援センター・NPO 法人ジャパンハーベスト  
\*食品や生活用品の提供・配送

### ②フードドライブの場所新規開設

備前日生信用金庫・ナフコ・商店など  
\*フードドライブのコーナー設置（思いやり♡BOX）他団体との連携

### ③こども服のリユース会開設

備前市社会福祉協議会・市内 NPO 法人  
\*リユース会の開設・準備・こども服回収・広報など

### ④夏休み昼ごはん支援

寒河まちづくりコミュニティ協議会・栄養委員など  
\*夏休み期間中の昼ごはん・夜ごはん支援

### ⑤連携を当事者で考える会の開設

NPO 法人 f-saloon・市内 NPO・学校・行政・施設運営者など  
\*会の開設・準備・広報・当日の司会進行・会への参加・アンケート集計・意見のまとめなど

## <協働することで得られた効果>

協働することで、1団体で行うよりも支援の必要な方に届いていく必要な支援の量が物理的にも人の気持ちや関わりの量的にも多くなっていくことを改めて実感するとともに、点だったものが線になり、面になっていくような感覚を得られている。

面になることで、支援を必要とする方に必要な支援が届いていきやすくなり、支援の取りこぼしが少なくなることも同時に感じている。

また、活動に関する理解を持ってくださる方が増え、共通理解ができ、活動しやすくなり、活動の幅が広がっていることを感じ、さらに段階を上げた支援が可能になったり、ネットワークの広がりを実感したり

している。

#### <協働実施をすることで得られた団体のメリット>

協働実施したことで、他団体の思いや願い・ねらいが理解できるようになったことや互いの思いを共通理解し、互いに課題解決をしながら、前に進むことがスピード感を持ってできるようになったと思っている。そうしながら、前に進むことで、当団体のことや活動のことを理解してくださる方が自然に増えてきており、こどもたちに届けたい支援が隅々まで届きやすくなっている。

ネットワークを構築できたことで、お互いの活動を支えあう仕組みができたことはありがたく、点ではなく、線や面になって子どもたちを支援できてきていることを感じるのが昨年度よりも更に実感でき、嬉しく感じている。当団体だけが、連携の必要性を感じているのかと思っていたが、実はどの団体も感じているところで、また、連携を考える会を開設した事で、民間団体だけでなく、実は学校関係・行政関係・施設運営関係の様々な分野の方々もいろいろな連携の仕方を望んでおり、それをつないでいく役割を持ったコーディネーターの存在が必要ではないかという意見がとても多くあったように感じた。そのことがわかったことが一番のメリットではないかと感じる。

市からの助成だけでは厳しい状況の食材の確保が、いろいろな企業さまや支援をいただける機関によって、ご支援をいただけ、こどもの居場所の継続的な活動が可能になっている。物価高の影響をかなり受けて運営している団体が多くいるので、かなりありがたたく、感謝しかない。

#### ～事業を終えて～

##### ○事業実施による効果

●備前市のこどもの居場所づくりを行っている団体同士のつながりがなかった昨年度当初の現状から、2年間、数回の交流会やSNSでのグループのやり取りを繰り返す中で備前市のネットワークが動き出し、関係が徐々に深まってきていることを感じるとともに備前市全体の居場所づくりの意識の向上や連携強化に効果が出ていることと感じている。今年度は、更に居場所の団体同士だけでなく、一段階引き上げるために、こどもに関係する団体・学校関係・行政関係・企業・施設関係などとの更に広がるネットワーク構築を目指し、「連携を当事者で考える会」を開催し、今後につながるキックオフの会となったことは、かなり大きな成果であり、参加者の熱量がかなり高いことが実感できたので、声を聞きながら、広くて強い備前市のこどものネットワークの構築を目指すことができると感じている。

●備前市のこどもの居場所のネットワークづくりを行い、そのネットワークを活用して並行しながら、フードパントリーやフードドライブのやりやすい仕組みづくりを行い、他の団体にも広げていくことができたことは、各団体の未開拓の部分フォローできたり、活動を継続することができる支援につながることができたりしたと思っている。

●様々な団体や機関と協働事業を行うことができたことは、互いの課題解決や活動充実につながったり、居場所のネットワーク団体の輪を外側から支えてくださる関係機関との関係づくり構築にしっかりとつながったりしている。各団体の活動の継続性や意識向上につながり、そのことで何より支援の必要な方に必要な支援が届く仕組みづくりがしっかりとできてくるので、その協働事業の成果がどんどん増してきているようにも感じられる。

●備前市だけでなく、備前県民局管内の赤磐・瀬戸内・和気のこどもの居場所開設団体とのネットワークづくりができ、居場所の洗い出しができた。各、市町の行政や社旗福祉協議会との連携もできたことは、大きい成果である。

## ○今後の課題・展開

●備前市のネットワークのフェーズが今年度、一段上がったような印象がある。今後は、広がったネットワークで頻繁に交流会の機会を持ち、情報交換を行ったり、研修会やなどを開設したりしながら関係性や意識・質の向上に更に努めたい。また、相談しやすい関係づくりを目指し、LINEなどを活用しながら、情報交換やフードパントリー・ドライブの取り組みがしやすくなるように工夫していく。そういったことを取り仕切るコーディネーター的役割を協働で会を開催した f -saloon と一緒に担っていきたいと考えている。

●フードドライブの活動やパントリーの活動は、関係企業様や関係機関のご理解を得ながら、地道な活動を広げていかなければならないと考えている。様々な可能性を期待しながら、理解を得ていくことができるように継続して周知活動を行っていききたい。

●ネットワークを活用しながら、こどもの居場所の「地域の交流拠点」「居場所になることができること」「多くの食事を提供できること」「情報交換の場になりうること」などの強みを活かして、災害時の避難や支援の拠点にもなることができるように、ネットワークで防災の活動にも更に取り組んでいきたいと考えている。今年度は、防災拠点に関する考え方もつきっかけとなる研修を行うことができたので、今後は、実践として、ネットワークでの炊き出し体験・防災時に役立つ実習的な研修会の開設を行いたいと考えている。

●備前市だけでなく、備前県民局管内の赤磐・瀬戸内・和気のこどもの居場所開設団体や行政・社会福祉協議会とのネットワークづくりができたので、他の市町の状況などを把握しながら、他の市町のネットワーク同士とのつながり作りも行っていきたいと考えている。

## ○まとめ

今年度の集大成は、昨年度に引き続き、「2026年版こどもの居場所マップ」の作成を手がけ、支援が必要な方にも、こどもの居場所を支えたいと思ってくくださる方にも、そしてお互いの団体同士にも必要な情報が詰まったパンフレットに仕上げることができたことである。昨年に比べ、把握できた数は3倍くらいになり、掲載できた居場所は、倍の数になった。数だけでもネットワークの広がりを示す成果である。マップによって、活動や取り組み団体の周知・支援団体が必要とする支援についても周知を行うことができる一つの手立てとなったのではないかと思う。

また、数の広がりだけでなく、ネットワークとしての協働の活動の充実も厚みを増してきたことを実感する。それぞれのスキルアップや意識の向上に一役買ったのではないだろうか。

今年度作成したマップの点が備前県民局管内でいっぱいになっていき、活動が線となり、面になっていくことを目指したい。面になっていくこと＝(イコール)ネットワークの広がりが、地域に「こどもの居場所」が理解され、必要な場所として求められている証にもなると思うし、支援の必要な方が近くの居場所と無理なく、何かしら繋がることができ、必要な支援を取りこぼさないことにもつながると考えている。ネットワークの構築は、支援者側だけでなく、支援を受ける側にもとても大切なことであると実感しているので、ネットワークの構築をコーディネートしていただくことができるように尽力していきたい。